

滝の裏側で遊ぶカヤホ族の子供たち。ラジル北部
八丁州にあるカヤホ族の居留地は、日本の本州の半
分ほどの広さ。世界有数の崩壊の保護区だ



A DESTROYED TREASURE

流血と破壊に 蹂躞される 現代の暗黒郷

PHOTOGRAPHS BY TOMMASO PROTTI

上空からは無垢に見える熱帯雨林に、私の興味を引き付け、離さない汚れたオーストラリアが、1トで、犯罪組織が支配権を握っている。弾丸を浴びた死者であり、飢饉の痛みこそが、彼らにとって森林は余るほどの未来への選択肢などない。は南米有数のコカイン取引ルな場所の1つだ。アンソン川の上から孤立して暮らす先住民の族、大河だけの土地ではない。私の知る南米フランスは、倒木や、孤立して暮らす先住民の拡大し続けている。ラジルの都市は、いま世界で最も危険のペンヤナクスといった下水を汚染する人、土地を耕すために森林を燃やす人…。彼らの多くは貧しく、追り来

と「ライロツナ

と信じている。

間を持つことが何より重要な

私は写真集『AMAZONIA』

の真実に光を当てるため

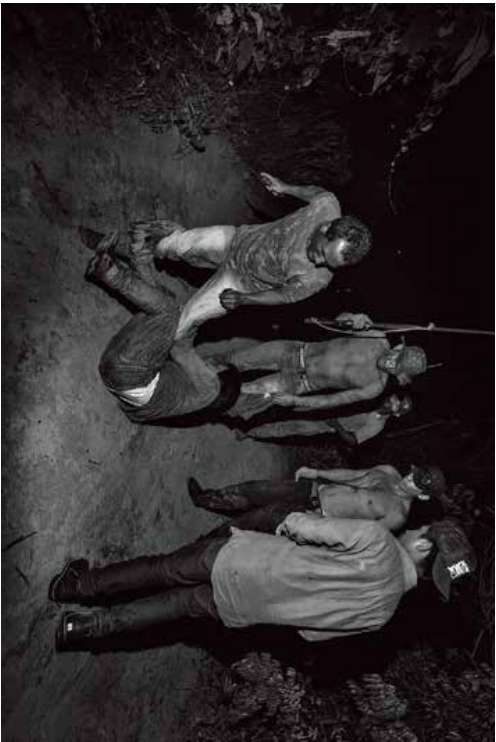
ペルに生まれた流血と嫉

リアルだ。

者であり、飢饉の痛みこそが

あり、間違っているのは科学

を出版した。現状を知り、疑



ブラジルのアマゾン
ジャマヤラ族森林警備
隊員たちが、違法伐採
業者に協力したとみられる同僚に「制
裁」を加える



アマゾンの土地を「農民運動」の推進者。一部の大地主が農地の大部分を所有する現状に抗議する活動を続けている



昨年11月にアマゾン州先住民保護区で違法伐採業者に殺害された同族リーダーの1人、パウロ・バウソ。25歳だった



ブラジル北部アマゾン州のアマゾン先住民保護区で、違法に切り倒された木を担いげに肩こめるアマゾンジャマヤラ族の森林警備隊員



アマゾン州は森林火災と違法伐採の最も大きな影響を受けた地域。2017年までに熱帯雨林の75%を失った



炎に包まれたロンドンニア州ホルトヘーユー3郊外の熱帯雨林。アゾンクでは2019年に8万件以上の火災が起きた



アゾクスの貧しい地区で顕微鏡で撃たれて若者が死に。採薬の代金を精算していたために狙われたとみられる

▶ Photographs by Tommaso Pretti for Fondation Carngnac

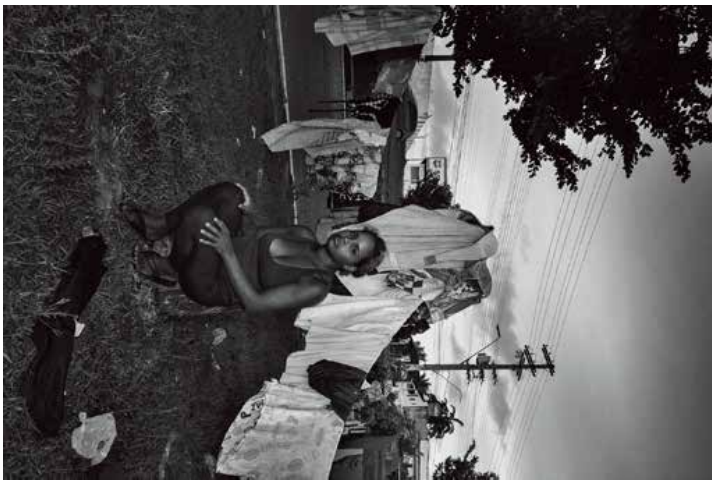
撮影：トマソ・プレッティ 1988年イタリヤ生まれ、大学で政治学、国際関係学を学ぶ。2011年からフォトグラフナーとして活動。ここに掲載した作品は、佐カリミニッツク財団が運営する人権侵害、環境的被害、環境などについての優れた調査報道に贈られる「カリミニッツクフォトジャーナリズム賞」を受賞したもので、同財団の支援の下で制作された写真集「AMAZONIA」と、同名の展覧会（VUIのヨーロッパ写真美術館で2月16日まで開催中）からの抜粋



アゾクスの貧困地区は2018年に火災に襲われ、低所得者層は不衛生で危険な場所に住まざるを得ない



アゾクス連の近くで獲まで水につかりながら産を飲むホームレスの男性。桶のこぼれはごみで埋まっている



半年前にヘネエラからアゾクスにやって来たディア・ホセ(27)。子供と共にカーブス用のテントで暮らす